

春日井市長
伊藤太 様

平成22年10月20日

春日井市政ウォッチング・市民会議
共同代表

春日井市東野町	池田修平
春日井市高座台	田代政弘
春日井市柏井町	林 秀治
春日井市岩成台	藤江美弥子
春日井市篠木町	堀尾文男

提 言 (第20回)

予算の1%を「市民事業公募枠」としてコンペを実施、市民投票で決定を!!

本市の行政運営は、約830にも上る「事業」により遂行されていますが、その計画、予算化、執行、決算の全てが行政の手で行われています。

本来、市の事業は全て、市民の意思の反映として計画立案されなければならないものです。

そのために、行政は、絶えず市民のニーズに耳を傾け、それらに応えるために全力を挙げ職務に精励し、法や条例・規則に則して予算(案)を作成し、議会の判断(諾否)を受けなければなりません。しかし、残念ながら、こうした予算(事業)への「市民の意思の反映」は十分だとは言いがたいのが現状です。

先の市長選での「再選」後の抱負では、「市民に密着した行政をやる」(新聞報道)と発言され、市民と共に行政運営をやるとの意欲がひしひし伝わってきました。

そこで、提案いたします。

当面、予算(個人市民税)の1%を「市民枠」とし、これに市民が自由に参加でき、市民自身の手により、市民のための企画(事業)を、市民の前で提案・発表(広報紙・ネット含む)し、市民がそれを評価し(投票で)、具体化する、というものです。

こうした施策は、市民の積極的な市政への参画となり、「市民活動に関する基本指針」の策定(市長マニフェスト)を目指す本市にとっても大いに資するものとなると考えます。

なお、このような制度は、一宮市、市川市、奥州市、八千代市、大分市などでも実施されており、市民と行政との協働へ大きく寄与していることを申し添えます。